

呼吸器画像が 読めるようになる会

第1回セミナー

胸部X線写真，HRCT読影の
基礎から展開へ

プログラム・テキスト

会期 ◆ 2011年 8月27日(土)

会場 ◆ 社会保険中央総合病院 4F講堂
〒169-0073 東京都新宿区百人町3-22-1

代表 ◆ 徳田 均
社会保険中央総合病院 呼吸器内科部長

呼吸器画像が 読めるようになる会

第1回セミナー

胸部X線写真，HRCT読影の 基礎から展開へ

プログラム・テキスト

会期 ◆ 2011年 8月27日(土)

会場 ◆ 社会保険中央総合病院 4F 講堂
〒169-0073 東京都新宿区百人町3-22-1

代表 ◆ 徳田 均
社会保険中央総合病院 呼吸器内科部長

○受講者の皆様へ

- 1) 受付：8月27日(土) 9:00～14:00
- 2) 座席は自由席となります。但し、講義中、「受講票」を机上の見えるところにお置き下さい。
- 3) 会場内では携帯電話の電源を切るかマナーモードへ切り替え下さい。
- 4) 会場内での撮影、録画、録音はご遠慮下さい。
- 5) お昼のお弁当は、講堂内お座席にておとり下さい。
尚、ゴミ箱は数箇所に設置致しますのでご利用下さい。

開催に当たって

「呼吸器画像が読めるようになる会」第1回セミナー

代表 徳田 均 社会保険中央総合病院
呼吸器内科部長

胸部単純写真は、我が国では、検診だけで年間3～4千万枚が撮影され、その他、入院患者について行われるものを含めると、その数は数千万枚に及ぶ。その撮影の技術的簡便さ、低コスト、被曝線量の少なさ、豊富な情報量などから今後も呼吸器疾患(を含む胸部疾患)の検出、診断において重要な役割を担い続けることは間違いない。

しかしその読影には幾つもの困難がつきまとう。

元々、空気という X 線透過度の良い成分を豊富に含むので、その中に存在する液体や細胞などの水濃度(water density)の構造を、極めて高い空間分解能で呈示できる。しかし肺は①肋骨という骨性臓器(metal density)に囲まれている、②縦隔の前後、横隔膜の後方などに伸びており、それらの場所では読影が妨げられやすい、③肺門から放射状に広がる血管(動脈、静脈)は、読影に当たって“ノイズ”となり、小病変の検出を妨げる、などの困難がつきまとう。これらを克服するためには、正常構造の配置を、個人差も含めてよく知る事が重要である。さらに、④呼吸の深さ、撮影時の体位の僅かなずれで、これら正常構造の配置、延いては見え方が大きく変わるので、それについても留意が必要である。

この様に多くの困難を抱えた胸部単純写真の読影であるが、欧米、そして我が国の多くの先達の努力により、高度な完成の域に達している。特に鈴木らが創始した、肺の既存構造(正常に存在する血管などの構造)を押さえ、その偏位から多くの情報を読み取る読影学は、我が国の独壇場といえよう。画像を通して病理へ、更に病態へと言う、結核病学の先達達の目指した方向性は、この読影学に脈々と受け継がれている。

しかしながら、この様な読影学は、これまで師匠から弟子へという形で伝承されてきたが、きちんとしたティーチングメソッドとして確立されないまま、今や若い世代に伝えて行く場が少なくなり、消滅の危機にさらされている。

我々4人は、それぞれ良き師に恵まれ、このような読影学を身につけることが出来、それを実践し、自分たちの周りの狭い範囲には伝えてきたが、この様な情勢の中で、是非広く全国の若い人達にこれを伝えたいとの思いが強くなり、相語らって「呼吸器画像が読めるようになる会」を結成した。度々の打ち合わせを経て、本年その第1回のセミナーを持つに至った次第である。午前のセッションで、講師4人が、それぞれの立場から、胸部単純写真読影の基礎をお伝えしたい。

また午後のセッションでは、近年大発展を遂げ、呼吸器疾患の診断のための必須のツールになった HRCT を取り上げる。CT は、機器の進歩により豊富な情報が日常的に得られるようになったが、それを使いこなすには、やはり我が国で先覚者達が創始、発展させた「小葉構造に即した診断学」が重要である。びまん性肺疾患、腫瘍性疾患、更には感染症の一部においてもこの診断学が威力を発揮する。原理は比較的シンプルであり、そこを押さえれば応用範囲は広い。この HRCT の読影の基本を、やはり4人の講師で、分担してお伝えする。

若い人達に呼吸器画像読影の基本を習得して頂き、その面白さを感じ取って貰えれば幸いである。

運 営 委 員

徳田 均 先生	社会保険中央総合病院 呼吸器内科 部長、 呼吸器画像が読めるようになる会 代表
山口 哲生 先生	JR 東京総合病院 副院長 呼吸器センター長、 呼吸器画像が読めるようになる会 運営委員
酒井 文和 先生	埼玉医科大学国際医療センター画像診断科 教授、 呼吸器画像が読めるようになる会 運営委員
楠本 昌彦 先生	国立がん研究センター中央病院 放射線診断科 副科長、 呼吸器画像が読めるようになる会 運営委員

プログラム

10:00～10:10 開会の辞／代表挨拶
社会保険中央総合病院 呼吸器内科部長 徳田 均

Part.1 胸部単純写真の所見の成り立ちと異常陰影の読影

10:10～10:50 **1** 胸部単純写真で見られる基本的な正常構造、その陰に隠れる異常陰影 6
社会保険中央総合病院 呼吸器内科部長 徳田 均

10:50～11:30 **2** 基本的な正常構造の把握から異常陰影の発見へ 22
国立がんセンター中央病院 放射線診断科 副科長 楠本 昌彦

11:30～11:40 Coffee Break

11:40～12:10 **3** 無気肺、正常構造の偏位として捉える 36
(右上葉、下葉、左下葉、右中葉、左上葉)
JR 東京総合病院 副院長 呼吸器センター長 山口 哲生

12:10～12:50 **4** これは異常か正常か？ 単純写真の所見の成り立ちを基礎から考える 50
埼玉医科大学国際医療センター 画像診断科 教授 酒井 文和

12:50～13:40 Lunch time

Part.2 HRCT の読影の基礎

13:40～14:20 **1** 小葉を基礎とした読影法の原理、各パターンの典型例 66
社会保険中央総合病院 呼吸器内科 部長 徳田 均

14:20～15:00 **2** 応用問題 サルコイドーシス、癌性リンパ管症、血行撒布 82
JR 東京総合病院 副院長 呼吸器センター長 山口 哲生

15:00～15:10 Coffee Break

15:10～15:50 **3** 小型肺癌、肺炎様陰影を呈する肺癌の読影 98
国立がんセンター中央病院 放射線診断科 副科長 楠本 昌彦

15:50～16:30 **4** いわゆる“間質影”について、単純写真とHRCTを対比させつつ 110
埼玉医科大学国際医療センター 画像診断科 教授 酒井 文和

16:30～16:40 Coffee Break

Part.3 胸部 X 線写真の読影の面白さ

16:40～17:20

1 胸部画像診断の面白さ —私の、胸部画像と40年—

126

東邦大学医療センター大橋病院 放射線科 客員教授 佐藤 雅史

17:20～17:30

閉会の辞／運営委員

埼玉医科大学国際医療センター 画像診断科 教授 酒井 文和

Part.1

胸部単純写真の所見の成り立ちと
異常陰影の読影

Part.2

HRCT の読影の基礎


呼吸器画像が読めるようになる会 第1回セミナー 胸部 X 線写真, HRCT 読影の基礎から展開へ

著作権保護のため著者の許可なく、本記事の
転用およびコピーはご遠慮願います。

発行日：平成 23 年 8 月 27 日発行

発行人：呼吸器画像が読めるようになる会
社会保険中央総合病院内
〒169-0073 東京都新宿区百人町3-22-1
E-mail：kokyuukigazougayomerukai@gmail.com
代表：徳田 均（社会保険中央総合病院 呼吸器内科部長）

事務局：呼吸器画像が読めるようになる会 事務局
社会保険中央総合病院内
〒169-0073 東京都新宿区百人町3-22-1
E-mail：kokyuukigazougayomerukai@gmail.com
担当：土田謙二 携）080-1156-6062
E-mail：kennji.tsuchida@gmail.com

出版： 学術集会専門出版社
株式会社 セカンド
〒862-0950 熊本市水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025